

2015  
3月号  
災害版No.46



表紙写真：ふるさに想いを馳せながら…双葉カルタ



ずっと、ふるさと。  
双葉町。



# 震災から4年を迎えて

## 町民の皆さまへ

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から今年11日で、4年を迎えるにあたり、町民の皆さまにご挨拶を申し上げます。大震災による大津波で亡くなられた方、そして避難先で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。そして、今なお全国各地に町民の皆さまが避難を続けている状況のなかで、一日も早い生活再建と、ふるさと双葉町の復興のため、諸課題の対応に日々全力で取り組んでおります。

復興公営住宅の整備については、昨年11月に郡山市内に、双葉町民向けとしては初めての八山田団地1号棟が完成し入居されましたが、今月中には、いわき市下神白団地が完成する予定となっております。

原発事故避難者向けの復興公営住宅の整備について、県は1月30日に、平成29年度までに整備する予定だった4,890戸のうち、約1,000戸の完成が、平成29年度末までにずれ込む見通しになったことを明らかにしました。この事態を受けて、2月9日には双葉地方町村会として、内堀福島県知事に対する復興公営住宅の早期整備に関する緊急要望を行い、私も参加して整備計画の前倒し実現を強く要望したところ

ろであります。

今後双葉町民が中心となって入居できる復興公営住宅として、町外拠点の中心となるいわき市をはじめ、郡山市、白河市、南相馬市での県による整備が本格化していきますので、引き続き県に対して、早期整備に向けた働きかけを行うてまいります。

さて、双葉町復興推進委員会が昨年10月から16回の審議を経て最終報告がこのたび取りまとめられ、私あてに提言をいただきました。この最終報告の中で、特に「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」案については、復興計画の考え方をより具体化し、町の将来像を明らかにするもので、昨年10月の中間報告をもとに町民の皆さまからいただいた意見を反映させるとともに、インフラ復旧と産業振興について検討した復興産業検討部会と、津波被災地域の復旧・復興を議論した津波被災地域復興小委員会の最終報告を踏まえた内容となっています。今後は議会と協議の上、長期ビジョンを策定することとなりますが、双葉町の復興のため、長期ビジョンの具体化に取り組んでいく所存であります。また、双葉町内の除染、復旧作業については、

双葉町長 伊澤 史朗

平成27年度に国による避難指示解除準備区域の両竹、浜野地区の本格除染が行われるほか、津波がれきの処理作業が本格化していきます。また、帰還困難区域内の拠点除染として、双葉中学校、双葉高等学校、双葉町コミュニティセンター、双葉駐在所に加え、国道288号線、県道4路線などの除染も実施されます。

このほか、本年度も引き続き、町民のきずなの維持・発展、町立学校における教育活動の充実や町民の皆さまの健康管理などの重要施策にも取り組んでまいります。

大震災から5年目となる本年も引き続き、双葉町が抱える諸課題の一つ一つに対応し、町民の皆さまに双葉町の復興を実感していただけるよう、初心を忘れず誠心誠意取り組んでまいります。

いましばらくは寒さの厳しい日々が続きますので、健康に留意され、ふるさと双葉町を想い、夢と希望を持って、共に頑張ってくださいませ。町民の皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。大震災から4年を迎えるにあたってのご挨拶といたします。



## 復興公営住宅の 早期整備を緊急要望

県が復興公営住宅の整備計画について、遅れる見通しを明らかにしたことを受けて、2月9日に双葉地方町村会は、内堀雅雄福島県知事に対する復興公営住宅の早期整備に関する緊急要望を行い、伊澤史朗町長は整備計画の前倒し実現を強く要望しました。



## 平成26年1月からの主な動き

6月4日 小泉進次郎復興大臣政務官が町立幼稚園、小・中学校を訪問



7月15日 環境省が「特別地域内除染実施計画（双葉町）」を公表

16日 } 関係省庁に対して要望活動  
17日 }

26日 復興大臣が、町立幼稚園・小学校・中学校建設現場及び、復興公営住宅予定地（いわき市勿来酒井）を視察



28日 環境大臣、復興大臣が、中間貯蔵施設建設等に係る国としての考え方を福島県知事、双葉町長、大熊町長へ説明

平成26年

1月11日 根本匠復興大臣が双葉町内を視察  
21日 石原伸晃環境大臣が双葉町役場いわき事務所へ来訪

2月5日 双葉町復興推進委員会が「第1期提言書」を町長に提出  
12日 福島県知事が環境大臣に対して、中間貯蔵施設を双葉町・大熊町に集約する方向で、施設配置計画案の見直しを検討することを要請

3月5日 双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）を策定  
9日 双葉町合同慰霊祭を挙行政  
27日 避難所であった旧騎西高校の鍵を埼玉県知事に返還  
27日 環境大臣・復興大臣が、2月12日の福島県知事の要請に対して回答（中間貯蔵施設の双葉町・大熊町への集約等）

4月1日 双葉町立幼稚園・小学校・中学校が開校（いわき市）  
7日 双葉町立幼稚園・小学校・中学校の開校式、入学式を挙行政  
25日 環境副大臣が福島県、双葉町、大熊町に対して、中間貯蔵施設等に係る措置等（生活再建・地域振興策等）について、追加回答

5月1日 議会全員協議会を開催し、国による中間貯蔵施設の住民説明会開催を了承  
27日 環境大臣と福島県副知事、双葉町長、大熊町長との意見交換会を開催  
31日 国による中間貯蔵施設の住民説明会を県内外で16回開催（5月31日～6月15日）

10月 29日 復興推進委員会が「双葉町復興まちづくり長期ビジョン 中間報告」を町長に提出  
復興推進委員会津波被災地域復興小委員会が「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）中間報告」を町長に提出

11月 7日 県営で初めての復興公営住宅の鍵引き渡し式（双葉町民用20戸の郡山市・八山田団地1号棟の入居が11月15日から開始）  
20日 町政懇談会の実施  
復興まちづくり長期ビジョン中間報告など（12月5日まで福島県内外で12回実施）  
21日 } 「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）中間報告」に基づき、津波被災地域の土地利用計画等に関して、両竹・浜野地区住民の方を対象とした住民説明会を開催  
22日 }  
26日 復興庁、厚生労働省、国土交通省に対して要望活動



27日 経済産業大臣が、双葉町内の町内復興拠点候補地を視察  
28日 知事に対して要望活動

12月 17日 環境省が、町内の避難指示解除準備区域にて、がれきの撤去作業を開始

### 平成 27 年

1月 8日 双葉町行政区長会を開催  
13日 議会全員協議会を開催し、町として中間貯蔵施設建設受け入れを表明し、了承



8月 8日 環境大臣・復興大臣が、福島県知事と双葉・大熊両町長に対して、中間貯蔵施設に係る交付金等の財政措置を説明

24日 双葉町立幼稚園、小学校、中学校の仮設校舎落成式を挙行  
25日 福島県知事が、双葉・大熊両町長に対して、中間貯蔵施設候補地の地権者の生活再建支援策等を表明  
26日 国・県が、議会全員協議会で中間貯蔵施設について説明



27日 国・県が、行政区長に対し中間貯蔵施設建設について説明  
28日 復興大臣が、「大熊・双葉ふるさと復興構想」（根本イニシアティブ）を双葉・大熊両町長に提示  
30日 福島県知事から、苦渋の決断として中間貯蔵施設の建設受け入れを容認する旨、双葉・大熊両町長・議長及び双葉郡8町村長へ説明  
双葉・大熊両町長から、地権者への説明を認める旨を表明

9月 1日 環境大臣・復興大臣に対して、県、双葉・大熊両町の考えを伝達  
安倍総理へ福島県知事が、県の考えを伝達（双葉・大熊両町長同席）  
29日 国による中間貯蔵施設の地権者説明会を県内外で12回開催（9月29日～10月12日）

10月 10日 ICTきずな支援システムの本格運用開始



23日 環境副大臣に対して、中間貯蔵施設の建設について、地権者の理解を得るよう、申し入れ



# 功績をたたえて

## ―江尻邦夫前教育長 受章祝賀会―

平成26年度秋の叙勲において瑞宝双光章を受章した双葉町前教育長である江尻邦夫さんの受章祝賀会が、有志の皆さんにより、いわき市内のホテルにおいて開催され、約90人の方々が出席しました。

開会后、開催有志を代表して半谷淳教育長があいさつをし、今泉祐一教育総務課長が江尻前教育長の経歴を紹介しました。

続いて、塩田正信相双教育事務所長、伊澤史朗町長、松本忠清元福島県教育庁義務教育課長が祝辞を述べられました。

伊澤町長は、「双葉町としても大変名誉なことです。江尻先生は、双葉町のまちづくりは将来を担う子どもたちの教育の推進が原点であるということから、「教育の一体化」「教育の連続性」を基本理念として教育改革を推進する傍ら、教育計画の策定に取り組みされてき



ました。指導主事の配置、教育委員会評価制度、読書活動支援員や特別支援教育支援員の配置、英語指導助手の2人配置などを行い、ハード面では学校給食センターの建設、校舎の耐震化などに取り組みられてきました。常に広い視野と将来を見通したビジョンを持ち、教育行政に取り組みられてきました。江尻先生が築かれてきた教育改革は、いつの日か必ず実を結ぶものと信じてやみません」と2期8年の功績を称えました。

花束贈呈では、孫の寺島菜帆さん、陽菜さん姉妹が江尻前教育長と夫人の京子さんに花束を贈りました。

祝賀会の席上で江尻前教育長は「町立学校図書などに活用してほしい」と町教育委員会に対して寄附を行い、半谷教育長が「子どもたちの読書活動に役立てたい」と御礼の言葉を述べました。

さらに江尻前教育長は、教育の道一筋に励んできた半生を振り返りながら、感謝の言葉を述べ、「今日の思いをかみしめて精進を重ね、この受章に恥じない余生を送っていきたい」とあいさつしました。

江尻前教育長ご夫妻、佐々木清一町議会議員長、吉田尚いわき市教育長、大森俊介元いわき市教育委員会教育委員長などが鏡開きを行い、受章を祝いました。

また、JAふたば大正琴の皆さんが「さくら さくら」「富士山」などを演奏して祝賀会に華を添え、多くの皆さんの祝福に包まれた素晴らしい会となりました。



## 医療費一部負担金等 免除期間の延長について

【双葉町国民健康保険・後期高齢者医療保険にご加入の方】

医療費一部負担金等免除の期間が平成28年2月29日まで延長されました。国民健康保険・後期高齢者医療保険にご加入の方につきましては、有効期限を延長した免除証明書を避難先住所（個人宛）へ2月下旬に送付いたしました。医療機関受診の際には、窓口で保険証と一緒に提示してください。提示がない場合、医療機関窓口で自己負担分の支払いが発生しますので、必ず提示してください。

・双葉町国民健康保険…オレンジ色、保険証と同じ大きさ（縦5.5cm×横8.6cm）

・後期高齢者医療保険…白色、A4用紙と同じ大きさ（縦29.7cm×横21cm）

※入院時食事療養費、入院時生活療養費の自己負担分および柔道整復（接骨院等）・あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう師の施術費、治療用装具費の自己負担額の免除は平成24年2月29日までで終了となっております。また保険外診療分は通常どおり自己負担となります。

【社会保険等にご加入の方】

医療費一部負担金等免除期間の延長等については、ご加入の健康保険組合等に直接お問い合わせください。引き続き窓口負担が免除される方は、免除証明書の更新が必要となる場合があります。

## 国民健康保険被保険者証の 更新について

【双葉町国民健康保険にご加入の方】

平成27年度の上葉町国民健康保険被保険者証（以下：保険証）を3月下旬に避難先住所（3月1日時点の避難先住所）へ送付いたします。簡易書留にて個人宛にお届けしますので、配達時にご不在の場合は郵便局に一時保管されます。再配達については「郵便物お預かりのお知らせ」に記載の連絡先へお問い合わせください。同じ送付先にお住まいの場合でも、郵便事情によりお手元に届く日が1～2日前後する場合があります。

なお、免除証明書は同封いたしませんので、2月下旬に送付したものを引き続きお使いください。

また、住民票が双葉町にない学生で、双葉町国民健康保険にご加入の方は申請が必要となりますので、健康福祉課までご連絡ください。

有効期限が切れた免除証明書・保険証につきましては、双葉町いわき事務所健康福祉課までご返却いただくか、自己責任のもと破棄していただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】健康福祉課 国保年金係

☎0246-84-5205

## 鴻草行政区からのお知らせ

鴻草行政区長 井戸川 則隆

大字総会及び交流会を開催いたしますので、ご参加ください。

○日時 5月9日（土）～10日（日）1泊2日

受付 午後3時～

総会 午後4時～

交流会 午後6時～

○場所 青稜山倶楽部

郡山市熱海町熱海5-18

☎024-984-2811

○会費 1人…5,000円

1家族何名参加でも可

○申込締切 4月10日（金）厳守

※準備の都合上早めのご連絡をお願いいたします。

【連絡先】井戸川則隆 ☎080-3140-3552

志賀 仁 ☎080-5225-9702

## 東日本大震災 双葉町追悼式のお知らせ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々を追悼するために、追悼式を開催いたします。

日時：3月8日（日）午前11時開式  
（午前10時開場）

場所：さがみ勿来斎場

いわき市錦町中央三丁目6-1

対象：東日本大震災により亡くなられた方のご遺族

内容：黙とう、町長式辞、追悼の辞、献花

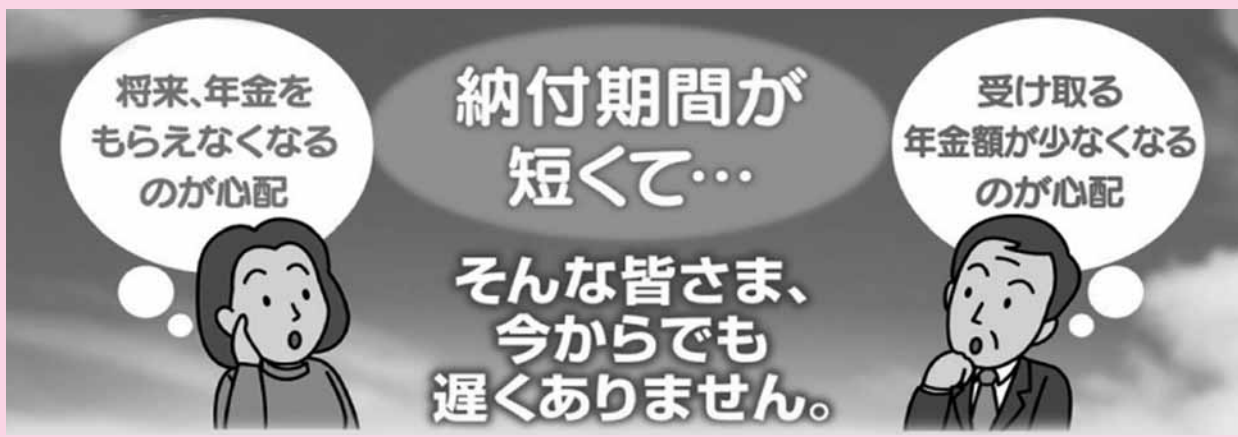
※近隣の旧東邦銀行植田支店錦出張所建物内で、東日本大震災の津波による思い出の品の展示、引き渡しも同日から3月15日（日）まで行います。





# 国民年金からのお知らせ

過去10年間に納め忘れた国民年金保険料はありますか？



## 国民年金保険料の後納制度

10年に延長されている後納制度が

**平成27年9月末**で終了します！

～この機会にぜひご利用ください～

過去10年間に納め忘れた国民年金保険料を納めることにより、将来の年金額を増やすことができます。また、納付した期間が不足して年金を受給できなかった方が年金を受けられる場合があります。

※高齢基礎年金を受給されている方は、この制度をご利用いただけません。

専業主婦(主夫)の年金の新たな手続きが始まります

## 特定期間該当届・特例追納のご案内

国民年金の切り替え(3号から1号へ)が2年以上遅れたことがある方へ

○「特定期間該当届」の手続きをすることにより、年金を受け取れない事態を防止できる場合があります。

さらに、「特定期間該当届」の手続きをした期間は、保険料を納付することができます(「特例追納」といいます)

○この「特例追納」をすることにより、年金額が増やせます。(特例追納ができる期間は平成27年4月1日から平成30年3月31日までです)

※すでに年金を受給されている方は、特例追納をしても年金額が増えない場合があります。

### 【国民年金に関する問い合わせ先】

○お問い合わせの際には、基礎年金番号をお知らせください。

国民年金保険料専用ダイヤル

☎0570-011-050

受付時間 月曜日 午前8時30分～午後7時  
火～金曜日 午前8時30分～午後5時15分  
第2土曜日 午前9時30分～午後4時

※050から始まる電話でおかけになる場合は

☎03-6731-2015へおかけください。

※月曜日が祝日の場合は、翌日以降の開所日初日に午後7時まで受け付けします。

※祝日(第2土曜日を除く)、年末年始はご利用いただけません。

次のケースの方が対象となります。

### ①ケース1

サラリーマンの夫が…

- ・退職した
- ・脱サラして自営業を始めた
- ・65歳を超えた
- ・亡くなった
- ・サラリーマンの夫と離婚した

### ②ケース2

妻自身の年収が増えて

夫の健康保険証の被扶養者から外れた



※妻が会社員、夫が専業主夫の場合も同じです。

この時に切り替えが遅れて未納期間が発生している方

この新たな手続きをぜひご利用ください。

※日本年金機構では、不整合期間が把握できた方に対し、平成27年2月中旬よりお知らせを送付しています。

# 温かいご支援をありがとうございます

2月6日、山岡姉妹の皆さん(写真左より松浦和子さん(浪江町)、遠藤栄子さん(浪江町)、半谷教育長、上野節子さん(新山)、本田桂子さん(下条)、松本つね子さん(長塚一))から、色とりどりの手編みのハンドウォーマーをご寄附いただきました。何か姉妹でできることをしたいと考え、高齢者の皆さんが少しでも暖かく過ごせるようにと手編みの品を作ったとのこと。2月6日はちょうど姉妹の母親の命日ということでいわき事務所に来庁され、半谷淳教育長に手渡されました。

今後、婦人学級長を通して各避難先の高齢者の方々に贈られる予定です。



## 平成26年度農業再開者 懇談会

1月16日、埼玉県加須市のふたば交流広場において、避難先で農業を再開した方々が集まり、情報交換のための懇談会が開催されました。

現在、農業を再開した農家は、埼玉県で8戸、千葉県と栃木県でそれぞれ1戸、福島県で2戸と合計で12戸になりました。今回の懇談会には9戸の農家の方が参加しました。

初めに、各農家の方から近況報告をいただきました。今年の米価の大幅な下落や、避難先の気候風土の違い等に大変悩まされているとの報告がありました。

また、今回の懇談会では、農林水産省関東農政局、及び福島県相双農



林事務所の職員などの参加をいただき、「経営所得安定化等」、「被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業」などについて説明をいただきました。

さらに、町の担当職員より飼料用米の取り組みの概要について説明しました。

質疑応答では多くの意見、質問が出され活発な懇談会となりました。

避難先での農業は苦労が絶えない様子ですが、皆さんは農業に張り合いを見つけ、生き生きと営農活動を再開しているようです。更なる飛躍と来年の再会を誓い、閉会となりました。



### 双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しておりますが、3、4月の相談窓口につきましては、お休みさせていただきます。

なお、電話、来所によるご相談は、随時行っております。双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます(携帯電話のポケット料金にはご注意ください)

#### 【問い合わせ先】

○相双農林事務所 双葉農業普及所  
☎ 0240-23-6474  
FAX 0240-27-4747  
住所：広野町大字下浅見川広長117-1

○川内普及所  
☎ 0240-38-2115  
(川内村役場 農村振興課内)  
住所：川内村大字上川内字早渡11-24



## 相馬税務署からのお知らせ

平成26年分の申告と納付等の期限は、所得税及び復興特別所得税・贈与税は3月16日(月)、消費税及び地方消費税は3月31日(火)です。

○受付期間：平成27年3月31日(火)まで  
(土・日、祝日を除きます)

<相馬会場>

振興ビル6階(相馬市中村字塚ノ町65-16)

午前9時～午後4時まで

※相馬税務署には申告書作成会場を設置しておりません。

※公共交通機関のご利用をお願いします。

<南相馬会場>

ピアフレスコ内(南相馬市原町区北原字境堀225)

午前9時30分～午後4時まで

## 東日本大震災による被災時の納税地が次の10市町村にあった方へ

【(南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村)】

平成22年分から平成25年分の所得税等の確定申告・納付等については、平成27年3月31日(火)までに手続きをお願いいたします。

○申告相談は、事前のご予約が必要ですので、相馬税務署または最寄りの税務署まで電話等によりご連絡ください。

【問い合わせ先】

相馬税務署 ☎0244-36-3111

いわき事務所税務課 ☎0246-84-5206

平成27年度 国家公務員

## 国税専門官採用試験のお知らせ (大学卒業程度)

仙台国税局では、バイタリティーあふれる税務職員を募集しています。国税専門官は、国の財政を支える重要な仕事を担い、税務署等において、調査・徴収・検査・指導などを行う税務のスペシャリストです。

○受験資格

- 1 昭和60年4月2日から平成6年4月1日生まれの方
- 2 平成6年4月2日以降生まれの方で次に掲げる方

- (1) 大学を卒業した方、及び平成28年3月までに大学を卒業する見込みの方
- (2) 人事院が(1)に掲げる方と同等の資格があると認める方

○受験申込受付期間

・インターネット：4月1日(水)～4月13日(月)

・郵送または持参：4月1日(水)～4月2日(木)

○受験申込方法

受験申し込みは原則インターネット申し込みとする。

郵送または持参用受験申込書の請求は、最寄りの税務署、仙台国税局人事第二課または人事院東北事務局へ行う。

○第一次試験日 6月7日(日)

【試験に関する問い合わせ先】

仙台国税局人事第二課試験研修係

☎022-263-1111 (内線3236)

## テクノアカデミー浜のオープンキャンパスを開催します

テクノアカデミー浜は、高等学校等を卒業してこれから就職しようとする方や転職して新しい職業を目指す方のために、産業界のニーズに合致した高度な職業訓練を実施する公共職業訓練施設です。

少人数による実習重視のカリキュラムで講師陣も大学、高専、産業界から招いており、最新の技術を学ぶことができます。また、開校以来就職率100%を継続しています。

1 開催日程 3月22日(日)  
10:00～13:00  
(9:30受付開始)

2 場所 福島県立テクノアカデミー浜  
南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-112

3 対象者 高校生及び社会人

※本校に興味をお持ちの方は、どなたも参加可能です。

### 4 平成27年度募集科及び定員

短期大学校	計測制御工学学科 (定員20名)
能力開発校	機械技術科 (定員15名)
	自動車整備科 (定員20名)
	建築科 (定員15名)

### 5 主な内容

- ・全体説明：本校の概要や入学試験制度、日程等について
- ・各科説明：各科実習にて詳細説明(全科見学ツアー有)
- ・学生寮見学会

【問い合わせ先】 福島県立テクノアカデミー浜  
学生募集担当 高橋・野中・星  
☎0244-26-1555



「友情を確かめ合って」

1999年(平成11年)度卒

双葉中学校同窓会

1月2日、郡山市内のホテルにおいて、双葉中学校平成11年度卒業生による同窓会が女性の厄流しを兼ねて開催されました。3人の恩師と県内外から約40人の参加がありました。同窓生の中には、とちぎ未来大使の「えりのあ」さんやスパリゾートハワイアンズ、ダンスチームのリーダー大森梨江さんの参加もありました。同窓会に先立ち、女性の厄流しが郡山市安積国造神社で行われました。

懇親会では、幹事を代表して富沢徳さんが、遠方から集まっていたことへの感謝と久しぶりの再会に旧交を温めてほしいとのあいさつがありました。続いて、恩師を代表して松本朝子先生から「お招きいただき、感激しています。皆さんの成長ぶりをうれしく思い、どんな状況にあつても逞しく生き抜いてほしい」とのあいさつがありました。

山口俊介さんが恩師の皆さんや同窓生の皆さんの健康と幸せを祈って乾杯を行いました。お酒を酌み交わし、食事を取りながら一人ずつ近況報告を行い、懐かしい双葉中学校時代の思い出話や子育てのことなどに花が咲き、時間の経つのも忘れて語り合いました。

一日も早い双葉町の復興を願う佐藤祐司さんの締めあいさつで会は閉じられました。参加した皆さんの友情がさらに深まった同窓会となりました。

※佐藤祐司様(両竹)より写真、記事のご提供をいただきました。

## 東日本大震災犠牲者追悼献花台の設置について

平成23年3月11日の大津波により犠牲となられた方々、そして、福島第一原子力発電所の事故による避難先で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りするため、下記のとおり、追悼の献花台を設けますので、お参りいただきますようご案内いたします。

なお、震災発生の午後2時46分に黙とうをささげたいと思いますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

### ○献花台の設置日時

- 福島県内及び埼玉県加須市  
3月11日(水) 午前10時～午後3時
- 茨城県つくば市  
3月11日(水) 午後1時～午後3時

※自治会の都合により時間帯は異なります。献花台は集会所または談話室となります。

### ○献花台設置場所

福島市内 2カ所	福島市さくら・福島市北幹線第二応急仮設住宅集会所
郡山市内 3カ所	郡山市富田町若宮前・郡山市喜久田・郡山市日和田応急仮設住宅
白河市内 1カ所	白河市郭内第一応急仮設住宅談話室
会津若松市内1カ所	会津若松市第二中学校西応急仮設住宅
【問い合わせ先】	生活支援課 郡山支所 ☎024-973-8090 (代)
いわき市内 1カ所	いわき市南台応急仮設住宅第3集会所
【問い合わせ先】	生活支援課 いわき事務所 ☎0246-84-5200 (代)
つくば市内 1カ所	つくば並木三丁目国家公務員宿舎501
加須市内 1カ所	双葉町社会福祉協議会加須事務所
【問い合わせ先】	生活支援課 埼玉支所 ☎0480-53-7780



# 平成27年度 双葉町奨学生募集

平成27年度の双葉町奨学生を次により募集します。

## ◇申し込み資格

- ・高等学校（高等専門学校を含む）、専修学校、大学、大学院に在学する者または平成27年度入学予定者。
- ※職業能力開発促進法に基づく学校等を含む。
- ・経済的理由により修学困難と認められること。
- ・国、県またはほかの団体から同種類の奨学資金の貸与または給与を受けていないこと。

## ◇貸与期間

在学校の正規の修業期間

## ◇貸与額（月額）

- ・高等学校（高等専門学校を含む）  
……………15,000円
- ・専修学校  
……………20,000円
- ・国、公立大学  
……………35,000円
- ・私立大学  
……………40,000円
- ・大学院  
……………40,000円

【問い合わせ先】双葉町教育委員会 教育総務課  
☎0246-84-5210

## ◇返還の方法

- ・卒業月の6カ月後から10年以内に、奨学資金の全額を半年賦で返還していただきます。希望により一括返還することもできます。
- ・利子は無利子です。

## ◇申し込み手続き

- ・申込受付期間  
4月1日（水）から5月8日（金）まで  
ただし、家計の急変等により緊急に奨学資金を必要とする場合は、受付期間を過ぎても採用しますので、双葉町教育委員会教育総務課までご相談ください。
- ・申請書の提出場所  
双葉町いわき事務所・埼玉支所・郡山支所  
※いわき事務所においては郵送での受付も行います。  
※申し込みを希望される方は、3月2日（月）から双葉町教育委員会教育総務課（双葉町いわき事務所）、双葉町埼玉支所及び郡山支所において申請書類を交付します。また、電話での依頼により申請書類の郵送も行いますので、左記へご連絡ください。

## 県中地区借上げ住宅自治会からのお知らせ 池田綾子音と光り絵コンサート



NHK BSプレミアム、「にっぽん縦断 ころろ旅」（俳優 日野正平さんの自転車旅）の挿入歌「ころろのふるさと」、テーマソング「ころろたび」を歌っている池田綾子さんと光の切り絵創作者 酒井敦美さんによる音と光り絵コンサートを開催いたしますのでどなたでもご来場ください。

- ・日 時： 4月12日（日）  
午後1時入場 午後2時開演（予定）
- ・会 場： 福島県農業総合センター 多目的ホール
- ・住 所： 郡山市日和田町高倉字下中道116

### ※入場無料

当日東京からマッサージ師が来られ、午後1時からサービスが受けられます。先着順となります。



## 避難により区域外就学をされている 児童生徒への就学費支援について

双葉町に住所を有し、区域外就学により、避難先の小・中学校に通学している児童生徒がいる世帯に対し、学用品費、通学費、校外活動費、修学旅行費や給食費などの就学費支援（以下、「支援」という）を行います。

支援については、原発避難者特例法により原則として通学している自治体で実施することになっていきますので、支援を受けていない方は、通学先の市区町村教育委員会へお問合せください。

なお、通学先の自治体と双葉町の両方からの支援は、受けることができませんのでご了承ください。

平成26年度に双葉町から支援を受けていた児童生徒については、平成27年度も継続となります。後日、申請書等関係書類を送付いたしますので、所定の手続きをお願いいたします。

【問い合わせ先】 双葉町教育委員会教育総務課  
☎0246-84-5210

## 普天間かおりさんによる 読み聞かせ



1月22日、ふたば幼稚園保育室において、沖縄県出身のシンガーソングライターでラジオ福島のパートナリテイとして活躍中の普天間かおりさんが、園児と小学1年生を対象に、絵本の読み聞かせを行いました。

普天間さんは、震災後、福島の子どもたちに「元氣」と「笑顔」を取り戻してほしいと願いながら子どもたちへ本を贈る「スマイル文庫」の活動も行っており、子どもたちのもとへ出向いて絵本の読み聞かせと歌を届ける活動をされています。

普天間さんを笑顔と拍手で迎えた後、小学1年生の小谷野真央さんが歓迎のことばを述べ、続いて普天間さんから「おおきなかぶ」の絵本の読み聞かせをしていただきました。普天間さんの優しい声に聞き入りな

がら、かぶを掘り起こす場面では、みんなで「うんとこしょどっこいしょ」と、大きな掛け声を交えて絵本の世界を楽しみました。

歌のプレゼントでは、沖縄のわらべ歌、赤田首里殿内（あかたすんどうずんち）を歌っていただき、普天間さんの美しい歌声に引き込まれました。

また沖縄のことや方言でのあいさつを教えていただきながら、楽しく交流を深めました。

続いて、普天間さんから5人の子どもたちに1冊ずつ絵本が贈られました。子どもたちは目を輝かせながら絵本を受け取り、感謝の気持ちを込めて歌を歌いました。また子どもたちが製作した手作りの紙の花をプレゼントし、普天間さんとの心躍る時間を過ごしました。

## 昔遊びで交流



1月27日、いわき市南台のサポートセンターひだまりにおいて、ひだまり利用者と小学生との交流会が行われました。この日は双葉南・北小学校から5年生1人、1年生3人と先生方が参加しました。

初めに、5年生の大高湊土くんが双葉の昔話の読み聞かせを行いました。たくさん練習したという双葉の方言で、心をこめて「南山の馬鹿婿」など3つの話の読み聞かせを披露しました。ひだまり利用者の皆さんは、面白い場面ではおおいに笑って、一生懸命読み聞かせをしてくれた大高くんに拍手を送りました。

昔遊びでは「双葉カルタ」「ビー玉」「紙ふうせん」「おはじき」などを子どもたちがそれぞれ担当し、ひだま

り利用者の皆さんと楽しく遊んで交流を深めました。

双葉カルタは、「海と山 自然豊かな双葉町」「ダルマ市 赤白選ぶ母の顔」「北小の 空き缶ザウルス あっかんだ」など懐かしい双葉町に関する読み札にふるさと双葉町を思い出しながら、笑い声があふれる楽しい時間を過ごしました。

合唱では児童全員で「ピリッ」を元気に歌い、最後に利用者の皆さんに肩もみのマツサージをプレゼントして交流会は閉会となりました。

ひだまり利用者の皆さんは小学生のかわいらしい笑顔や一生懸命な様子に目を細めながら、楽しい時間を過ごしていました。



# 夢に向かって

## ふたばの教育復興応援団 為末さんによる授業

2月5日、双葉郡の子どもたちを応援する「ふたばの教育復興応援団」のメンバーによる初めての模擬授業が楡葉町と双葉町において行われました。双葉町では町立学校仮設校舎において、陸上元オリンピック選手としての為末さんを講師に迎え小・中学生を対象に行われました。

小学生を対象とした体育の授業では、体育館で楽しく体を動かすゲームをした後、走ること一番大切なことは姿勢であること、体をまっすぐにすることがコツなど、速く走れる方法を伝授していただきました。続いて、双葉北小学校の5、6年生を対象に「夢に向かって」の道徳

の授業が行われました。為末さんは、「自分の夢はオリンピック選手で、日本一になり、世界で戦う事だから毎日練習もしたし、いろいろと苦しい事もあったけれど諦めず夢をかなえる為に踏ん張った」と陸上競技を始めたきっかけや初めて出場した2000年のシドニーオリンピックのハードル競技で9台目のハードルにつまずいて転倒し、予選落ちしたこと、その失敗から学んだことなどについて話されました。双葉中学校では学級活動の授業が行われ、自身が転倒したレースの映像を見せながら、「過去に起きたことは変えられないが、失敗をしたこ

とから何を学ぶかが大事である」と話されました。また「負けや失敗により人は成長する。できないと思ひ込むのではなく、夢を膨らませることが大事である」と語りかけました。生徒からの「自分の選んだ道の後悔したことはないか」の質問には、「何かを選ぶときは何かを選ばなくなることで、大事なことは行動すること。方向転換はいくらでもできる。ぼんやりとした夢は持っていた方がいい」と答えました。また、「陸上をやっていて良かったことは」との質問には、「全力の出し方を学んだ。目標を設定することを学べたこと」と答え、「日課にしていたことは、自分の気持ちや心の状態を書きとめること」と話されました。

生徒たちは真剣に為末選手の話に聞き入り、自分の夢について考える貴重な時間を過ごしました。



# 一諸に学んで、 楽しんで...

教育総務課生涯学習係では、各地に避難されている町民の皆さまが、学び続け、長期にわたる避難生活の中でも学ぶ喜びを感じ、生き生きと輝けるように、避難先の地域ごとに1年を通して生活学級や婦人学級を開催してきました。

生活学級の事業としては、生きがい趣味講座や生きがい健康講座、防災講座を開催しました。

生きがい趣味講座では、陶芸教室、そば打ち体験、民話など、生きがい健康講座では、健康に関する講座や健康体操などを行いました。防災講座では講師により防災に関する講話をいただきました。

婦人学級では、自分たちで計画を立て事業内容を決め、手芸、料理教室、生け花など自主的に活動しました。

来年度も生涯学習係では、避難生活にあっても数多くの方々が気軽に参加し、自主的に学べる充実した内容を計画していきたいと考えています。



▲8月6日 つくば生活学級  
飛び出すカード



▲6月17日 あいづ生活学級  
漆塗り



10月14日 みなみだい生活学級  
そば打ち体験



◀▲11月25日  
ふくしま生活学級 民話



10月2日  
そうま・みなみそうま生活学級  
▼ フットケア



▲10月15日 いわき生活学級  
そば打ち体験



◀▲12月4日  
こおりやま生活学級 陶芸教室



◀ 9月26日  
防災講座  
かぞ生活学級



◀ 9月2日  
防災講座  
しらかわ生活学級



—健康生活のススメ—



# 夜型生活を送る方へ

仕事や勉強などで夜遅く夕食をとる人が増えています。健康のために良くないことはわかっているけど、こうした生活習慣を変えるのは難しい時期もありますね。遅い夕食は肥満を招きやすいだけでなく、睡眠の質が低下し、疲れやすくなったり、胃腸の調子にも影響を及ぼすことがわかっています。私たちの体には、朝から昼にかけて活動量を増やし、夕方から夜にかけて活動量を減らす「体内時計」がそなわっていて、全身の調子をコントロールしているためです。

特に注意したいのは、寝る前に食べてしまったせいで、朝の目覚めが悪く時間がない、胃もたれするなどの理由で、朝食を抜いたり、飲みものなどで軽く済ませてしまうことです。このような生活リズムが出来上がってしまうと、食事と食事の間の時間がかかり長くなり、食べたものが体脂肪にかわりやすくなります。また、次に食事をしたときには、空腹感から早食いをしやすくなり、血糖値が急上昇します。血糖値の急上昇を防ぐには、肉・魚などのメインのおかずや、ごはんよりもまず野菜を先に食べる方法もありますが、前の食事から時間があきすぎて空腹感が強い時はその効果も薄れてしまいます。

どうしても夜が遅くなってしまう場合にも、食事を抜くことはせず、食べ方を工夫してみてください。ポイントは、夕方に軽食をとることと、家に帰ってから脂肪の多いものを控え、野菜料理を中心に食べることです。おすすめの軽食メニューを下図に示しました。夕方に空腹感を抑え、家では軽食でとれなかったものを中心に食べてください。体を作るたんぱく質（肉・魚などのメインのおかず）はきちんと食べましょう。脂肪分の多いおかずだった場合は、量を控え、残りは翌朝に食べても良いです。

体内時計は、朝の光を浴びることや昼間体を動かすことによっても規則正しくすることができます。体の調子を整えて、春の気配を感じたいですね。

## 軽食におすすめの食品



### <200-300kcal>

おにぎり（1個）  
サンドイッチ（1パック）  
ロールパン（2個）  
のり巻ずし（2～3切）

### <およそ100kcal>

バナナ（1本）  
ヨーグルト（1個）  
インスタントスープ  
せんべい（2～3枚）  
みかん（2個）

菓子パンやケーキは1個で300kcal、もしくはそれ以上のももあります。とりすぎには気をつけましょう。

## かんたんレシピ

### ○枝豆の梅風まぜごはん（4食分）



#### <材料>

- ・米…300g（2カップ）
- ・水…2カップ
- ・梅干し（大きめ）…1個
- ・酒…大さじ1
- ・塩…小さじ1/4
- ・しょうゆ…小さじ1
- ・枝豆（さや付・冷凍で良い）150g
- ・いりごま（白）…少々

<準備>米はといで分量の水に浸けておく。枝豆は解凍し、さやから出す。

#### <作り方>

①ごはんを炊く前に、梅干し（丸ごと入れる）と酒、塩、しょうゆを加える。

②炊き上がったら、梅干しの種をとり果肉をちぎって混ぜる。

枝豆といりごまは食べる直前に加えて混ぜる。

※枝豆のかわりにツナを加えるとボリュームアップ。おにぎりにして夜食にもおすすめです。

### ○白菜のドリア（2食分）



#### <材料>

- ・ご飯…200g
- ・白菜…100g（2～3枚）
- ・玉ねぎ…1/4個
- ・ハム（厚切り）…100g
- ・バター…20g
- ・牛乳…1と1/2カップ

・コンソメ…3g

・こしょう…少々

・パン粉・粉チーズ…各大さじ2

<準備>白菜は食べやすい大きさのせん切り、塩ひとつまみをかけて10分置き、水気を絞る。玉ねぎはうす切り、ハムは小さめの角切りにする。

#### <作り方>

①鍋またはフライパンにバターを溶かし、玉ねぎを炒める。しんなりしたらごはんを牛乳を加え弱火で煮つめる。

②とろみが出てきたら、白菜とハム、コンソメを加えて1分煮る。味見してお好みでこしょうを加える。

③火からおろして耐熱容器にうつし、パン粉、粉チーズを散らしてオーブントースターで5分程度焼き色がつくまで焼く。

## 双葉町社会福祉協議会から ～健康運動教室、にこにこサロンのお知らせ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。  
お気軽にご参加ください。



### 3月開催予定日

開催場所	住所・連絡先	開催月日	時間
<b>健康運動教室</b>			
双葉町コミュニティ施設 せんだん広場	郡山市御前南2丁目73 024-983-1861	3月30日(月)	14:00～15:30
郡山市 富田町若宮前応急仮設住宅集会所	郡山市富田町字町田11 024-983-9420	3月30日(月)	10:00～11:30
郡山市 喜久田町早稲原応急仮設住宅集会所	郡山市喜久田町早稲原字上ノ端54-4 024-983-9590	3月10日(火)	10:00～11:30
福島市さくら応急仮設住宅談話室	福島市さくら1丁目10-1 024-593-6511	3月19日(木)	10:00～11:30
福島市 北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小田原8-1 024-573-2598	3月19日(木)	13:30～15:00
<b>にこにこサロン</b>			
白河市 産業プラザ人材センター	白河市中田140 0248-22-3512	3月10日(火)	10:00～14:30
鹿島交流センター	南相馬市鹿島区横手字川原186-1 0244-46-5117	3月6日(金)	10:00～14:30

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 024-973-5291 【担当：泉田】

## 消防署からのお知らせ

浪江消防署 0240-38-2119  
富岡消防署 0240-25-2119

## 春季全国火災予防運動実施中！

そもそも火災予防運動ってどんなものなの？



火災が発生しやすい時期を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止し、死者の発生を減少させるとともに、財産の損出を防ぐことを目的としている運動です。



火災予防運動っていつ実施しているの？



火災予防運動は春と秋の年2回行われています。春季は消防記念日(3月7日)を最終日として3月1日から3月7日までの1週間。秋季は119番の日(11月9日)を起点として11月9日から11月15日までの1週間に実施しています。



火の取扱いには十分に注意し、火災の発生を未然に防げるよう、皆さん一人ひとりが、それぞれの火災予防運動を実施していきましょう。



# 双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた  
お便りの一部をご紹介します



武内 恒雄（長塚二）

春はまだまだの様ですが、節分が過ぎると何となく春が近いような気がします。でも、周囲を見ても冬の名残りのような物が目に写ります。唇を見ては、季節を先取りして春を待っております。

- ・まだまだだと 肩いからせて 冬將軍
- ・音も無く ガラス曇らす 氷雨降り
- ・大寒の 残月隠す 時雨雲
- ・畑守りの 蕪如月の 風寒し
- ・類かむり 水面の寒風に 猫柳

## 放浪生活の詩

松木 清秀（羽鳥）

春まだ浅き 白河の 城の  
水辺の 鳥でさえ ありながら  
帰るねぐらが  
原発敷設の 事故のため  
吾が家に帰る すががなく  
放浪を続けて 早や4年  
ああ ふるさが 恋しくて  
落つる涙も  
かれはてぬ

## 追悼句

高倉 早智子（新山）

- ・避難地に 逝く人数え 四度春
- ・避難地の ここも古里 寒椿
- ・届きたる 支援物資に 年迎ふ
- ・寒灯や 気づく幸せ 捨てし家
- ・初夢は 捨てし古里 駆けめぐる

柚原 秀康（三字）

- ・遠くより 無事の知らせの 年賀状
- ・亡き友の 分まで生きる 初詣で
- ・暗き世に 光もたらず 元旦草

関根 初巳（長塚一）

- ・福寿草 家族一緒に かたまりて
- ・元旦や 笑いの芯に 赤ん坊
- ・竹林に 斑のこぼれ 寒雀

## 人のうごき12月分

敬称略

### お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
千葉遥斗	1月17日	勉・一美	下条
半谷仁	1月20日	諒・美恵	下条

### お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
若林 整	65	11月16日	長塚一
山田トシヨ	97	12月17日	山田
松浦 勝枝	75	12月22日	新山
舘下キクヨ	87	12月28日	長塚一
西原 信一	94	12月29日	浜野
谷津田尊明	86	1月2日	三字
稲本 一郎	77	1月4日	長塚二
木幡 貴久	87	1月8日	羽鳥
本田 利子	79	1月14日	郡山

### <お詫びと訂正>

広報ふたば1月号に掲載しました記事の中に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P10 申告受付日程

正 ~平成27年3月16日(月)

誤 ~平成26年3月16日(月)

## 双葉町民の避難状況

(平成27年2月2日現在)

- ・福島県内に避難されている方 4,047人
- ・福島県外に避難されている方 2,972人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。  
0246-84-5202

## 双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

# 記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信

第22号



**「ふるさと絆通信」であなたの  
想いを伝えてみませんか。**

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

**【問い合わせ先】秘書広報課  
☎ 0246-84-5202**



ずっと、ふるさと。双葉町。



いしい よしゆき  
石井 義幸 さん

(三字)



●避難先●  
福島県いわき市



私は双葉町消防団長を務めさせていただいています。本来であれば、自分たちの地域は自分たちで守ることが原則ですが、故郷への立ち入りが制限されている状態なため、避難先の仮設住宅や借上げ住宅などでの防火・防災活動に努めています。

4年前の原発事故では、ほとんどの町民の方は避難指示が出されてすぐに町を離れましたが、それから約5日間ほど、町に残っていました。その間、原発は2回爆発しました。3月14日に発生した爆発の時は、丁度、私は屋根の上で、地震によりずれた瓦の修繕をしていました。風向きが自宅方向とは逆の北西向きだったため、差し迫った危険はないものと判断しましたが、今になって、風向きが逆であつたらと考えると恐怖を覚える時があります。

町を離れてから、南相馬市内の親類宅にお世話になりました。私は勤務先がいわき市内で業務を再開することになったため、家族を残して単身でいわきに移りました。勤務先はいわき市内で数力所の移転をした後、四倉工業団地内に落ち着くことになったため、通勤を考え、近くに住居を探しました。現在生活している住宅と巡り合うことができ、平成25年春から被災前のように、家族3人で生活しています。母は80歳を超えましたが、デイサービスなどに通いながら日々を送っています。

一方、私は平成26年4月、風呂上がりに身体の違和感を覚え、病院に救急搬送されました。脳梗塞の診断が下されましたが、処置が早かったことや発症部位・程度が幸いして、四肢の麻痺もなく生活できるようになりました。しかし、多少しゃべりづらいことなどもあり、昨年7月、病気を機に職場を退職しました。車の運転を含め日常生活には支障はありませんが、長年、楽しんでいたバイクに乗るのはあきらめました。また、消防団長の任務に自信を無くしかけた時期もありましたが、町長から「これからは回復するんだから」と激励を受け、続けることにしました。現在もりハビリを続けていますが、月命日（毎月11日）に行われている捜索活動などには参加しています。

避難開始から4年になりますが、双葉町の自宅には毎月戻っています。もう、自宅から持ち出すものもありませんが、自宅敷地内の池で、父の代から飼っている鯉の世話は続けています。被災前は50匹前後おりましたが、錦鯉や緋鯉を中心に減ってしまいました。今は真鯉が20匹前後泳いでいるだけです。初夏になると池のほとりで花を咲かすアヤメの姿だけは変わりありません。

原発事故を経て生活は大きく変わりました。両親が創業し、結婚後、妻が引き継いだ「さくら食堂」は、避難を機に廃業の手続きをとり、40年目を待たずに暖簾をおろしました。



やまだ ごろう  
**山田五郎** さん  
 ゆりこ  
**百合子** さん  
 (山田)

ふるさと **絆通信** ●避難先●  
 栃木県那須塩原市

私は、郵便局員として、長年、郵便の集配業務にあたってきました。10年前に定年を迎えた後も避難するまで、契約社員として仕事を続けてきました。40年以上続けてきた郵便マン人生の中で、町内のほぼ全世帯の皆さんについて、住所・名前・顔が一致します。避難指示により町を離れましたが、今でも「どここの誰さんはどうしているのかな」と思いう出すことがあります。

郵便の集配業務は、郵便事業の民営化後に進められた業務効率化の中で、人員の異動や再配置などが頻繁に行われるようになったため、昔ほど、顔なじみといった「地域密着」の度は薄れてきましたが、高齢化が進む中、「あそこのばあ(じい)ちゃんは今日も元気だった」というように、地域コミュニティの維持という点でも重要な役割を果たしていたと思います。そうした経験があるためか、原発事故による避難で生活環境を変えられてしまうことは、特に高齢者にとつてだけ負担になることかを心配してしまっています。住宅の整備や補償・賠償などは行われているとはいいますが、高齢者を中心とした「心の復興」はどうなのかと考えることもしばしばです。

震災発生翌日、私たち家族は大熊町内に住む次女一家とともに町を離れ、途中、浪江町内や福島市内に住む親類と離合集散を繰り返しながら、3家族計8人で栃木県那須塩原市にある兄が所有する別荘に身を寄

せました。うち、1家族は県内に戻りましたが、私たちと次女一家は、現在も同市内で生活しています。

被災前から、ほぼ毎年、年に数回、兄弟でこの別荘に集まるなどしていたため土地勘があるためか、地域コミュニティに溶け込むこともできています。避難後しばらくは兄の別荘におりましたが、偶然、ちょうど良い売家があるとの縁を頂き、早速見に行ったところが気に入ってしまい、現在、その物件が新たな「我が家」となっています。庭では畑をつくり、鶏を飼っています。双葉で生活していた時のように、隣との境界を気にする必要が無いとはいきませんが、家族で手入れするには十分かと思う程度の屋敷となりました。また、白河市も遠くないため、白河地区の借上げ住宅自治会に加入しています。

原発事故に遭うまで、仕事の傍ら、農業、狩猟や魚釣りを楽しんでいました。あのシーズン(平成22年冬〜23年春先)は、仲間と共に20頭以上の猪を仕留めました。そうしたことも、今となつては「故郷に置いてきざるを得ない思い出」となつてしまいました。

こちらで落ち着いてから、耐火煉瓦を組んで庭にピザ(写真右側)釜を造りました。また、暖かい季節には近くを流れる那珂川で鮎釣りをしたりしています。そして、時折、訪ねてくる友人らにピザや鮎を振る舞つて、お互いに避難後のストレス解消を図っています。



すがもと たけつね  
菅本 武恒 さん

(浜野)



●避難先●  
福島県いわき市



私はJR東日本に勤務し、現在、水戸―竜田駅間で電車の運転を担当しています。20歳で当時の国鉄に入社して以降、分割民営化を経て、列車の運転士として、今年で36年目を迎えます。来年は還暦を迎えるため、仕事も一区切りとなりますが、健康にだけは気を付けてきました。現在も年間約200日程度、電車の運転をしています。こうしていただけるのも、支えてくれる家族あつてのことと思っています。

私の自宅は浜野地区にあり、残念ですが津波により基礎を残すだけの姿になってしまいました。被災当日、私は非番だったため、いわき市内に出かけていました。妻は浪江町内の勤務先にいたため、自宅には高齢の母が一人おりました。地震の発生と大津波警報の発表を受け心配しましたが、母は幸いにも近所の方々の助けを借り、津波襲来前に避難することができました。また母は、自宅内で家具の転倒に遭うことも無かつたそうです。職業上、私は自宅を留守にすることが多いので、地震に備えて自宅内の家具に転倒防止措置を施していました。それが、この大地震で功を奏したようです。

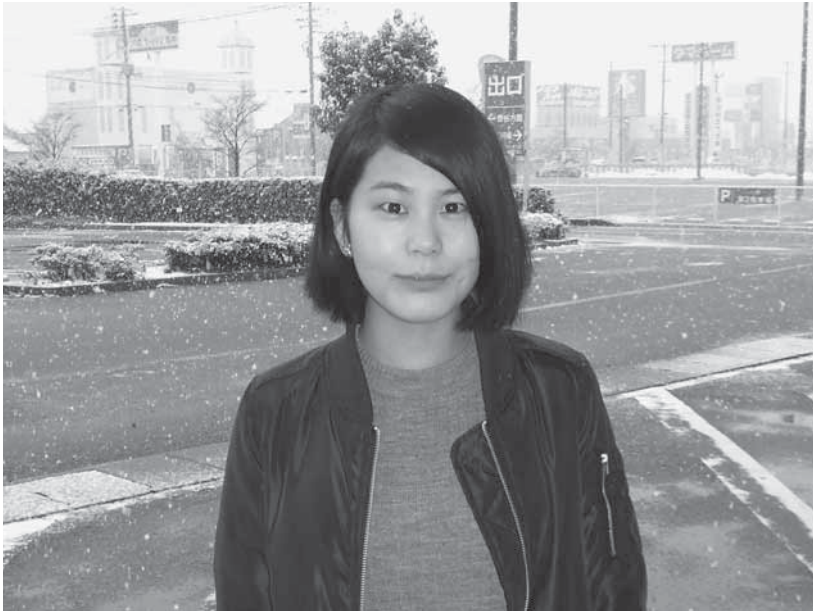
避難により同所を皆さんが離れるまでの間、できる限りのことをさせて頂きました。

しばらくして、仕事の再開に伴い、母を千葉県に住む姉一家に預け、妻と共にいわき市内にある取り壊し予定だった古い社宅に入居しました。震災発生から1カ月後より勤務を再開しましたが、同日、いわき市内を震源とする大きな余震に見舞われるなど、大変な船出となりました。

その後、避難区域の再編により自宅がある中浜地区は中野地区、両竹地区とともに避難指示解除準備区域に指定されましたが、現実的に生活再建できる状況に無いため、母と私たち夫婦に残された人生を少しでも充実させようと考え、いわき市内に自宅を建て、一昨年夏から家族3人で生活しています。

震災発生から4年になろうとしています。自宅のあった地区は緑地になる計画があると聞いていますが、住むのが難しいといえ、故郷の姿が消えてしまうのは寂しいものです。「復興とはどういうことなのか」と考えることもあります。答えを見つけることはできません。

私は20歳で父と死別し、父と同年代の先輩方のお力添えを頂きながら過してきました。そうした先輩方の中には、避難後、亡くなる方も少なくありません。なぜ、故郷を離れた土地で最期を迎えなければならぬのかと思うと、残念でなりません。



ただの すみれ  
只野 董さん

(新山)



●避難先●  
福島県福島市

現在、私は株式会社三万石に勤務し、福島野田町店で菓子の販売を担当しています。現在の仕事に就いたきっかけは、子ども頃から菓子店のスタッフの仕事が楽しそうに思ったことと、高校在学中に就いていたアルバイトの経験を通して、人と接する販売やサービスという職種に興味をもったからです。

被災当時、私は小高商業高校の1年生で、大地震に遭った時は、長塚にあるコメリでアルバイトの勤務中でした。揺れで店内外の商品が崩れたり散乱したりしましたが、お客様とスタッフは無事でした。地震発生直後より店は営業できなくなったため帰宅し、無事、家族と合流することができました。翌朝、避難指示を出されてからは、親類宅や旧騎西高校などの避難所を経て、学校が福島商業高校内でサテライト開校されることになったため、家族で福島市内での生活を始めました。

避難後、同級生や友人とは離れてしまいました。携帯電話やインターネットを通して、地理的に離れていても連絡を取り合えるなど、極端な孤独状態に陥ることもありませんでした。高校生活は、平成23年春から1年間はサテライト校に在籍しましたが、翌年からは福島商業高校に編入となり、無事、卒業を迎えました。福島市に移った当初、状況の変化に対応できるだろうか

という不安がありました。小高商業高校に勤務していた先生が、私と同じような境遇にある生徒のケアに当たってくれたこともあり、やり遂げることができました。今でも、その先生や同級生とは、時々会って食事をするなど、交流を続けています。

私は、1月3日にいわき市内で行われた当町の成人式に参加し、成人代表の一人として「私たちの夢・希望」を発表させていただきました。その中で、「私の夢は、お客様から、『あなたから商品を買いたい』と思ってもらえるような従業員になりたい」と話させて頂きました。現実には、勤務先には、お客様から絶大な支持を得ている先輩がおり、日頃、「将来こうなりたい」と私の目標になっています。

これまで、何度か一時帰宅をしています。かつてのアルバイト先の前を通ることがありますが、崩れた肥料袋の山がそのままになっていて姿をみると、震災までの日々を思い出すこともあります。自宅からは思い出の品物を持ち出すことはできませんでした。

故郷を離れしばらく経ちましたが、どこかに「故郷・ふたば」を感じられるような場所があればと思うようになりました。そうした抛り処があれば、物理的な帰還にこだわらなくても、ふたばのアイデンティティーを大切にしながら、今後より充実したものになるのではないかと思います。



# 株式会社 エナジー

代表取締役

さかもと しんいち  
坂本 新一



●避難先●  
福島県いわき市



弊社は、発電所やプラントなどの配管工事やメンテナンス等を行う鍛冶工事や管工事業を主な業務内容として、昭和59年に設立されました。私どものような仕事は、作業に当たる従業員の技術が商品のため、「人材が命」です。そのため、震災発生前までは、新卒者を積極的に採用し、時間をかけて育てていくといった、中長期的視点に立った事業運営を行ってきました。

震災に遭った時、私は、双葉町内の会社事務所ですら、多くの従業員が福島第一原発をはじめ現場に出て作業にあたる最中でした。地震の揺れが治まらない中、大津波警報が出されました。従業員の皆さんの安全確保と安否確認をしようと試みましたが、電話は通じず、道路状況も悪く、非常に困難な状態でした。

被災翌朝以降、当町をはじめ双葉郡内の各町村には避難指示が出されました。当時、弊社の従業員は全員が双葉郡内の住民だったため、避難により各地に分散してしまいました。私は家族と共に町を離れ、従業員や取引先様等と連絡を取り合いながら、栃木県内を経て、仕事関係の方々の世話で、新潟県柏崎市に生活拠点を構えました。

避難当初、原発事故という未曾有の事態で、先が見えない状況の中、従業員の皆さんの生活をどう保障していけばいいのかとか、取引先様に迷惑をかけるわけにはいかないとい

た苦悩を抱える日々でしたが、いわき市と柏崎市を歩き来しながら、会社存続への道を模索しました。そんな中、原発事故収束に向け協力してはもらえないかと声をかけていただいたため、いわき市内に仮事務所や、避難先から駆けつけてくれる従業員たちの宿泊施設を確保し、平成23年4月から会社の業務を再開しました。また、取引先など関係先の皆さんからの協力で、関東地方での仕事を確保できたため、同方面に避難した従業員も働けるような環境を用意することができました。

原発事故を経て、仕事内容は大きく変化しました。事故前からの鍛冶工事や管工事業に、スクリーニングやがれき処理などに関する業務が加わりました。放射能や放射線へのリスクが無いとはいえない環境で、中長期的な計画を建てられる状況では無いため、事故前のように若い方を育てるということはできなくなっていました。

避難以前とは業容は変わってしまいましたが、仕事を通して、故郷の復興に少しでも貢献できればと思っております。私たちと一緒にそうした仕事に携わりたいと思う方がおりましたら、ぜひ、ご連絡ください。

(株)エナジー いわき事務所

福島県いわき市平字三倉63番地3

三倉エレガンスビル2階F号室

電話 0246(88)1951

FAX 0246(88)1952

# ぼくの夢・わたしの夢



埼玉県羽生市立川俣小学校 6年 よこやま 横山 りく 李矩 くん(長塚一)

みなさん、お元気ですか。ぼくは埼玉県の羽生市で元気にやっています。

ぼくの将来の夢は、家や物の設計士です。きっかけは、家を作る時に、住む人のことを考えて設計しているところを見てかっこいいと思ったからです。設計士になるにはどうすればいいのか調べたら、まず大学や専門の学校で資格をとり、キャリアをつみ、センスを磨かないといけないそうです。そのためには、今は学校の勉強を頑張りたいと思います。そして時々、建物を見たり調べたりして設計士になれるようにしたいです。

みなさん元気にしてください。

## 今月のベストスマイル



### 編集後記

東日本大震災から4年となる3月を迎えました。皆さんそれぞれの想いで3月を迎えられたことと思います。

元オリンピック陸上競技の為末大選手が授業の中で、子どもたちに「過去は変えられない。努力してコントロールできることに目を向けていくこと」と話されていました。「震災がなかったら、震災さえなかったら」と思うことがたびたびありますが、前を向いて今できることに目を向け、目標に向かっていかなければなりませんね。

今月の表紙は、小学生がサポーターセンターひだまりを訪問し、利用者の皆さんと昔遊びでカルタ取りをしている一場面です。双葉町の懐かしい情景を思い出しながら、カルタ取りを楽しんでいました。

小さな芽が地面や木々の枝から顔をのぞかせているのが見られます。春はもうすぐそこまで来ています。



ふたばっ子学習会で、仲良しのえのきうち たつき 榎内龍輝くん10歳(長塚二)といしはしりょうすけ 石橋亮佑くん9歳(三子)の笑顔です。

## 連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4  
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213  
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024  
福島県郡山市朝日一丁目20番2号  
☎ 024-973-8090  
FAX 024-933-5120  
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105  
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階  
☎ 0480-53-7780  
FAX 0480-53-7266  
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>  
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式フェイスブックページ [つなげよう つながろう ふたばのわ](http://facebook.com/fukushima.futaba)  
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

